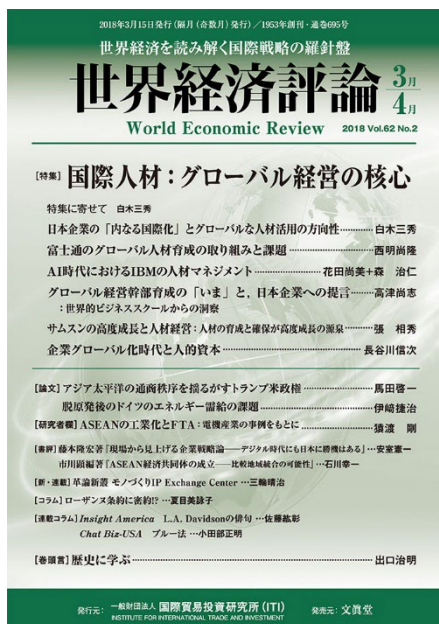


本論文は

世界経済評論 2018年3/4月号

(2018年3月発行)

掲載の記事です



世界経済評論

定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料

OFF

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読
期間中

デジタル版バックナンバー読み放題!!



世界経済評論 定期購読



☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp
雑誌のオンライン書店

歴史に学ぶ

立命館アジア太平洋大学 (APU) 学長 出口 治明

カエサルの同時代人だったキケロは、「戦争はお金だ」と経済の重要性を喝破していた。昔のお金を生み出す活動、経済の中心は農業と交易だった。農業は気候変動の影響を大きく受ける。凶作は度々民族大移動の因となった。2世紀半ばからユーラシア大陸が広範囲に寒冷化した。寒冷化によって南下を始めた遊牧民は天山山脈を前に東西に分かれ、各地で押し出された民族が雪玉のように脹れ上がり大移動した。中国の五胡十六国やいわゆるゲルマン民族の大移動は、そうした気候変動がもたらした歴史的スペクタクルだった。

気候の次に歴史を動かして来たのは交易である。古くは日本の北九州になぜ文明が起ったか。それは朝鮮半島の南部が鉄を産し、北九州がその鉄を導入して農業の生産性が格段に上がったからである。

産業革命以降、社会は工業社会に変化した。工業化時代の交易品（世界商品）はもっぱら化石燃料、鉄鉱石、ゴムになった。日本のようにそれら三要素の産出に恵まれない国は自由貿易で頑張るしかなかった。米国のように、人口が増え、かつ産油量世界一の国は、「アメリカ・ファースト」を声高に叫べる。先進国で日本ほど自由貿易の恩恵を蒙る国はないと自覚し、率先垂範すべきであろう。

気候と交易で生きてきた人類は産業革命以降、気候のウェイトが下がり、交易の比重が上がってきた。

昔キッシンジャーに会った時、彼が自由貿易について一つの隠喩を語った。「人はワインと同じだ」

と。なぜなら、人は生まれた土地を愛し、先祖を大事にする。人はワインと同じように、故郷の土地や気候の産物でもある。「先祖を大事にする」点でも、ワインが伝来の種子の風味をしっかりと維持しているのと似ている。

自由貿易の基本は世界の人々との交渉である。我々は地理と歴史を勉強して、世界の人々と語り合えるようにならなければいけない。APUでは89カ国・地域の学生が学んでいる。若い国連のようなもので、国際感覚を学ぶには最適の場だ。

将来何が起きるか分からない。ただ変化に適應するしかない。必ずしも賢い人、強い人が生き残るわけではない。リーマンショック級の大変動はまた起きるとい人が多い。リーマンショックを勉強した人としなかった人。どちらが変化に適應できるかと言えば、前者に手が挙がるだろう。悲しい哉、教材は歴史しかない。ビジネス・スクールで学ぶケーススタディーより、歴史の勉強は広く深い。

唐の太宗は「貞観政要」で三鏡の心構えを説いた。リーダーが正しい意思決定をするには三つの鏡が必要だと言う。銅の鏡は自分を映す実物の鏡。常にこやかな自分であるかを映す鏡。歴史の鏡は、過去に照らして将来に備える鏡。つまり、将来似たような出来事に見舞われた時、歴史の鏡に学んでいれば上手に対応できる。三つ目は人の鏡。直言してくれる人を大事にせよという心構えの鏡である。

現代が学ぶべき、鏡に映す歴史は何だろうか。

(でぐち はるあき)